

自然体で多彩な健康管理の 取組みが健康経営の道を拓く

株式会社オリソー



休日を利用した「社内歩こう会」の様子

株式会社オリソーは、輸出織物の包装・梱包専門家として1962(昭和37)年に京都で創業、織物を地場産業とする地で半世紀を超える歴史を重ねてきた。時代の要請に応じて営業倉庫部門や運輸部門に業容を拡大、創業10年後には現社名に名称を変更し、総合物流企業としての地歩を固めた。創業以来のノウハウを堅持する輸出包装業務を原点とし、倉庫業務においては業界に先駆けてシステムを開発し、管理が難しい反物をすべてデータ化することで「一反、一反」のデータ管理を可能にした。また、敷地内にスリット加工場と営業倉庫を備え、低コストでの原反のスリット加工業務を展開するなど総合物流企業として進化し続けている。

創業者の「人を大切にする」社風は連綿と受け継がれ、従業員の健康管理に全社を挙げて取り組むのは特別なことではなかった。できることから一つずつ実現してきた結果が今年の2月、経済産業省の制度である「健康経営優良法人2017」の認定につながった。今回は同社が誇る柔軟な「健康づくり」の取組みを紹介する。

従業員の要求で健康づくりに挑戦

「かつては地方からの就職が多かったこともあって当社にも寮がありました。ほとんどが高卒でしたから、先代社長はこの寮生たちが成人するまでは親御さんから預かっていると考え、礼儀作法を厳しく躰しつけました。お茶やお花などの習い事も社内で受講できるようにし、この時の師範が半世紀経った今でも従業員に生け花を教えに来てくれており、最近では男性の参加者も増えました。先代の『従業員は大切な預かりもの』という発想が、従業員のことを第一に考えるという社風につながっていったのだと思います」と、角高修社長は先代を懐かしむ。当時、繊維業界は活況を呈し、同社の輸出業務は常に時間との戦いであったとのこと。現場はもちろん事務の職場でも残業が続き、習い事がなかなかできない従業員のために会社が粋な計らいをした。健康経営の萌芽がここにあった。

長く働き続けられる環境の構築を目指した先代社長の意志はしっかり受け継がれ、何よりもコミュニケーションを重んじる角高社長は、新年の祝賀会や年1回の慰安旅行の全員参加を推進してきた。その行先については各営業所から選ばれた複数名で決めるとのことで、慰安旅

行を大切なコミュニケーションの場と位置づけている。また、労務運営委員会や安全衛生委員会を出される従業員の要求に真摯に耳を傾け、実現可能なことから一つずつ取り組んでいく姿勢は一貫している。

「当社が健康経営の道を歩き出したのは何かきっかけがあったというのではなく、これまで実現してきたことがそのまま健康経営の指標に沿っていたという側面があります。全員で行うラジオ体操も安全衛生委員会から発案され、朝8時半には音楽が全館に流れるよう整備しました。今では社外のドライバーも一緒に体操して、朝からモチベーションが上がっています。従業員の意見を安全衛生委員会がすくい上げ、発案し、そこに会社が予算枠を付けるといった方式ですべてが決まっていきます。健康づくりに関する声にはできるだけ応えていきたいと思っています」と角高社長。

「安全衛生委員会の事務局は総務の私が引き受けています。現在当社には6つの営業所がありますが、委員会には各営業所から複数で参加しています。役員以外の方が委員長に就き、社長も出席しませんので、自在にさまざまな要望が出される場となっています。最近は健康への関心が高く、『社内歩こう会』も要望の中から実現したものの1つです。これは休日を利用し家族も参加が可能なウォーキングですが、健康の気づきはこのような取組みから始まるものだと思います」と語るのは総務部の井上皓太係長。衛生管理者でもあり、従業員の健康づくりの裏方を一手に引き受けている。

健康経営優良法人認定取得

「今年2月、当社は『健康経営優良法人2017』に認定されましたが、そこに至る過程は社長も少し触れたように自然の流れでした。きっかけといえば、協会けんぽ京都支部から事業所の健康診断の結果というものをお願いしたことでしょうか。それを見ると当社の従業員の医療費が同業他社に比べて大変低いことが分かり、すなわち従業員の健康づくりに着実に取り組んでいるからなのではないかということで、京都支部が実施している『^{きょう}京から取り組む健康事業所宣言』にエントリーしてはどうかというお話が先がありました。それでまず健康事業所宣言をすると、今

度は『健康経営優良法人』への挑戦を勧められました。

正直に言いますと申込期限が迫っていたのでエントリーするために何かの健康づくりに着手するというのではとても間に合わなかったのですが、項目をチェックしていくとすでに当社が取り組んでいることがたくさんあり、手続きとしてはあまり苦労しないで認定を取得させてもらいました。このとき改めて従業員を大切にする歴史の重みを感じました」と井上係長は表情を引き締めた。

同社では井上係長をはじめ各営業所の安全衛生委員が「健康づくりの担当者」を引き受けている。角高社長のもとで新設された役割だが、各委員が健康づくりの先頭に立ったことで従業員の意識も変わりつつあるという。

安全衛生委員会事務局を兼ねる井上係長は委員会と社長の橋渡し役でもあり多忙な日々の連続だが、二次健診の受診率アップが目下の課題と考えている。定期健康診断の受診率は100%でも職種によっては二次健診の時間が取れないという従業員もいるため保健師を招いて保健指導を実施するなど、病気の早期発見・治療には二次健診受診が大切であることを丁寧にアナウンスしていきたいと願う。また、日頃から健康に対する意識を高めてもらうため栄養素やカロリーについても積極的に情報を提供している。健康づくりにおいて先進的な取組みがあるからこそ、常に『より良く』ということを意識するという井上係長の言葉は頼もしい。

「私が願うのは、ここで働いていてよかったと従業員みんなが感じることが出来る職場環境の構築です。そのためには有給休暇制度や育児休業などからの復職制度について充実を図り、時代に合った働き方を模索しながら、誰もが健康で働く喜びを分かち合える職場を実現します」と角高社長が力強く締めくくった。

健康経営のより高い峰を目指して同社の挑戦が続く。

会社概要

株式会社オリソー
事業内容：倉庫・梱包・運輸の総合物流業
設立：1962年
従業員：200人
所在地：京都市右京区